



Report

ひまわりホール子どもアートフェスティバルは多くの歓声と嬉しい悲鳴でいっぱいになりました!!

10月8日・9日、ひまわりホール子どもアートフェスティバル2023が損保ジャパン名古屋ビルを会場にして開催されました。「もっと子どもが主役」をモットーに子どもが参加し体験できるフェスティバルを目指して行ってきましたが、新型コロナウイルスの影響で2020年から実施を見合わせてきました。しかし23年5月の感染症法上の位置付け変更を受け、4年ぶりの開催が急ぎょ実現。2日間プロ、アマ計21団体、のべ25ステージの人形劇やワークショップなどが繰り広げられ、都心のオフィスビル内に子どもたちの歓声が広がりました。

1Fエントランスでは、ラストラダカンパニーによるパフォーマンス。その空き時間にはパネルシアターの飛び入り上演も。19Fひまわりホールと17F会議室がプロ、アマの連続上演の会場に。またワークショップの1日目は「みとみ音楽館」による音体験、2日目は「afterimage」によるダンスと、来場者が体験できる楽しいイベントでした。ダンスのワークショップでは、来場者に交じって会場スタッフも一緒に汗を流していました。

2日共、雨模様であったのが逆に幸いしたのか、当日のお客様も多くお越しになり、入

場券代わりのリストバンドが足りなくなったり、マルシェのランチ弁当が早い時間に売り切れてしまうといった嬉しい悲鳴も。運営サイドとしては、4年ぶりの企画を無事に実施できただけでも大きな意義を感じました。

来年は愛知人形劇センターとひまわりホールが35周年を迎えるため、さらに趣向を凝らした企画を考えています。ご期待ください。

伊藤 進

(愛知人形劇センター理事・人形劇団わたくも)

P新人賞NEXT THE STAGEが、人形劇の未来を示す

参加団体のご紹介

P新人賞の「P」は、バベットの「P」とオブジェ+身体パフォーマンスの「P」です。人形劇ジャンルの未来を担う斬新な才能を発掘し、人形劇の新たな創造の可能性を追求するクリエイション企画として、2023年度からは装いも新たに実施しています。

2月には、総数8団体から選ばれた2団体が名古屋の舞台芸術の第一線で活躍するアドバイザーと格闘しながらブラッシュアップした作品を、「P新人賞NEXT THE STAGE」と銘打って上演。最終日には全国から4名のコメンテーターをお招きして、上演団体とともにクロストークも展開します。人形劇の新しい水平を、ぜひ覗き見に来てください。

2024年2月23日(金・祝) 13:00 / 18:00、24日(土) 13:00

損保ジャパン人形劇場ひまわりホール

前売一般2,200円 当日2,500円

センター会員2,000円(事前申込に限る)

※2/24日は終演後にクロストークあり。

P新人賞NEXT 検索



チケット予約フォーム

クロストーク出演者

小林七緒(演出家、俳優、一般社団法人日本演出家協会常務副理事長、流山児★事務所) 智春(演出家、振付家、肉體劇作家、クラウン、チキキパーク主宰) 藤田光平(日本ウニマ会長、人形劇団クラルテ) 高橋一元(特定非営利活動法人愛知人形劇センター理事長) 宇都企画 老若男女未来学園

上演アドバイザー

大野正雄(人形劇団むすび座) ゆみだてさとこ(PuppetTheaterゆめみトランク) ニノキノコスター(オレンジスタ) 山内庸平

P新人賞NEXT 特別講座レポート

12月6日、損保ジャパン人形劇場ひまわりホールではP新人賞NEXT関連事業として、ドイツを代表する人形劇フェスティバルのディレクターAnnette Dabs(アネッテ・ダブス)氏、Mascha Erbelding(マシャ・エルベルディング)氏をオンラインで招へい。特別講座「ドイツの人形劇祭ディレクターに聞く! 2023年の必見作品」が開催されました。

当日は日本学術振興会特別研究員(PD)の山口遥子氏による通訳と進行で、スクリーンに次々と映し出されるヨーロッパの最新人形劇の様子を受講。質問も交え、アットホームな会となりました。参加者もアーティストから研究者、舞台制作に関わる担当者など多彩な顔ぶれ。講師のお二人がプロデュースするフェスティバルやヨーロッパ人形劇フェスの現在にも話が及び、とても有意義な講座となりました。

ヨーロッパの状況を直接知る機会は貴重なので、この企画は来年度以降も継続していきたいと考えています。



宇都企画(東京都) 『風吹く丘の古びたお屋敷』

役者: 宇都恵利花 人形遣い: 森仁美(genre:Gray) 奏者: 田中雄一(GYPSY VAGABONZ) 脚本: ガラ林(ガラ劇) 衣裳: 平石愛(team.ごせんぶ)

PROFILE

宇都企画とは、宇都恵利花が自分の世界観を表現するための演劇公演。“役者と人形と人形遣い”が基本形。日常の中でその時間にしか訪れることが出来ない物語の世界。日常の何気ない場所と結びついた物語や出会った人は現実なのか? 夢なのか? 観劇後の日常に戻った人生で、ふと、そんな感覚になる公演を目指しています。

STORY

風は自由何処にでもありうるものなのだ。風吹く丘の古びたお屋敷には口の聞けないお嬢様が閉じこもっていた。お屋敷の主人は娘を心配して少女から言葉を引き出したものに望みの喪失を約束した。世界中から道化が集まり、妖精や妖怪、夜には幽霊まで古びたお屋敷に集まり芸を披露した。そんなある日。大劇場に立つ夢を叶えるため骸骨少年のルークはお屋敷に忍び込んでお嬢様の口から言葉を引き出すと世にも奇妙なお伽話を始める。



吉報 vol.1「こぼす」参加作品【炎上覚悟】海の家裏側全部教えます!より



第二回公演(ハイパーゴジティブ)「シーレクター」より

老若男女未来学園(東京都/愛知県) 『一度に全部は無理だとしても』

出演: 廣瀬達也(劇団ハイエナ) 松先菜南子 山野颯真(名古屋国立大学演劇部劇団純-NORO-) 内藤義明★ 作: 加納周一★ 演出: 森悟★ 演出助手: 小藤琴★

身体表現指導: 井戸田莉菜 衣裳小道具: 青木理華 空間デザイン: 今井染★ 音響プラン・音楽: 山田碩人★, nekami★ 照明プラン: うめだ★ プロダクトデザイン: 山田碩人★ テクニカルディレクション: まこぼろず★ (★は老若男女未来学園所属)

PROFILE

演劇を中心とした幅広い芸術分野での活動を画策するクリエイティブ団体。2017年、愛知県名古屋市にて旗揚げ。作家や俳優のみならず、メディアアーティストやプロダクトデザイナーなど、多様なメンバーが在籍。日常にユーモアをねじ込むスタイルを広く人々に提案し、実践してもらうことで、めっちゃおもしろい世の中の実現をめざしている。

大反響を呼んだ『人形劇 寿歌』がスケールアップして再演決定



2022年初演の「人形劇 寿歌」(脚本・監修: 北村想、演出: ニノキノコスター、人形美術: ヨコヤマ茂未)

2022年12月に初の人形劇化で大きな話題となった、愛知人形センターPresents『人形劇 寿歌』が早くも再演となりました。今回は「公文協アートキャラバン事業 劇場へ行こう3」参加事業としてパティオ池鯉鮒(知立市文化会館)との共催にて、同劇場の花しょうぶホールにて開催します。

今回、人形劇団むすび座の協力のもと人形の機構と構造を修正し、ひまわりホールよりひと回り以上大きなホールにて上演します。出演は、この作品で第7回俳優A賞を受賞したpuppet theaterゆめみトランクのゆみだてさとこをはじめ、ラストラダカンパニーのLONTOとChang、同じゆめみトランクの桑原博之、俳優の山内庸平、声の出演として原作者の北村想、劇団ジャブジャブサーキットの荘加真美、初演メンバーと変更はありません。

パティオ池鯉鮒の花しょうぶホールは300席弱の小ホールです。ひまわりホールとは違って間口も高さも十分にあることから、舞台空間を活かした演出で44年前の『寿歌』初演時より近い「明るい虚無」を感じていただければと思っています。

当日は開演時間及び終演時間に合わせて、知立駅北口とパティオ池鯉鮒の間をシャトルバスが運行します(行きは13:00名鉄知立駅発)。名鉄名古屋駅から知立駅までは特急・急行利用で20~25分。名古屋駅から名古屋市内のホールへのアクセスと変わりません。スタッフ・キャスト一同、全国からのご来場を心よりお待ちしております。

愛知人形センターPresents

『人形劇 寿歌』

2024年1月25日(木) 14:00、26日(金) 14:00 開演

パティオ池鯉鮒(知立市文化会館)花しょうぶホール

一般前売2,500円(パティオレーと会員・愛知人形劇センター会員は2,300円) 当日3,000円